

# 2023 インテグリティ教育

**豊田 則成**

びわこ成蹊スポーツ大学

JBA技術委員会ユース育成部会

子どもものの未来に  
責任を持つ！

# 暴言暴力の根絶を目指して

- 議論を風化させてはならない
- まず10年間は議論し続けよう
- 暴言暴力の根絶は必須課題
- 社会的な責任を帯びている

子どもは困っている

**保護者**も困っている

コーチも困っている

# コーチも苦しんでいる

- 何をどのように苦しんでいるのか、  
**見える化**する必要がある
- その苦しみは他の人々を苦しめていることもあるかも
- 時には人を傷つけてしまうことも

悩みを共有し  
互いに支え合う



# 「技術指導」よりも「心の支援」を

□ 子どもはコーチを信頼している

□ 子どもを保護し癒していく

□ 子どもを深く理解する(心の伴走)

□ 学び続け、議論し続ける

子どもは大人の

ミニ化でない！

# 子どもたちは**発展途上**にある

- 奥行き知覚・動体視力(未完成)
- 周辺視・図と地の分化(未完成)
- 聴覚記憶(コーチからの指示を把握する)
- 聴覚弁別(指示や声援と雑音の聴き分け)
- 相手を打ち負かすことよりも、自分のベストを尽くすことを重視する(不安と自信)

**暴力はイケナイ**

**暴言は？？？**

**コーチングは社会的な営み**

試合会場ではなくなってきた  
では、**普段の練習**はどうか？

# 指導 ≠ 支配

日常的に実践されている指導を振り返り、点検する必要がある

**罰 ・ 脅し ・ 制裁**

**何も教えていない**



# 暴言暴力 = 虐待

子どもたちの発達に不利益なかわりにごく身近なところにある

# 児童虐待防止法(略称)

- 正式 児童虐待の防止等に関する法律
- 虐待(Abuse: アブユーズ) 大人から子どもへの発達を阻害する行為全般
- ①身体的虐待(暴力・体罰)、②性的虐待、③心理的虐待、④ネグレクト
- 保護者が対象(だからこそ厄介！)

# マルチリポートメント

「違法ではないけども、不適切なかわり」

マル

(mal 悪い)

+

トリートメント

(treatment 扱い)

# チャイルド・マルトリートメント

18歳未満の子どもに起こるあらゆる種類の  
身体的・心理的・性的虐待とネグレクト、商業  
的またはその他の搾取を行うこと、さらに責任、  
信頼または権力の関係の文脈において、子ど  
もの心身の健康・発達・大人・対人関係などに  
害をもたらすこと。（世界保健機関 WHO）

# 指導者の不適切なコトバ

**心理的虐待になっていないか**

**「指導者の焦りによって適切でないかわりとなっていないか」**

# 指導者の不適切なコトバ（１）

## □ **質問形式で問い詰める**（答えようがない）

「何回言われたら分かるの？」

「どうしてそういうことするの？」

「ねえ、何やってるの？」

「誰に向かってそんな口のきき方をするんだ？」



# 指導者の不適切なコトバ（２）

□ **本当の意図を語らず、裏を読ませようとする**（指導者の思い通りに動かそうとする）

「やる気がないなら、やらなくていい」

「もう勝手にすれば」

「好きにすればいいじゃん」

→ 「やりなさい」「勝手は許さない」

# 指導者の不適切なコトバ（3）

## □ 脅して動かそうとする（脅迫・威嚇）

「早くしないと、〇〇させないから」

「じゃあ、〇〇できなくなるけどいいんだね」

「もうみんなとは〇〇させられない」

# 指導者の不適切なコトバ（４）

□ **虎の威を借りる（だから、やっちゃいけないよ）**

「お母さんに言うよ」

「お父さんを呼ぶよ」

「〇〇コーチに怒ってもらおうからね」

# 指導者の不適切なコトバ（5）

□ **下級生と比較する**（侮辱、軽視、バカにする）

「そんなこと1年生もやりません」

「そんな子は1年生からやり直してください」

「幼稚園に戻りたい？」

# 指導者の不適切なコトバ（6）

□ **指導者側に責任がないことを強調する**

「ダメって言ったよね」

「もうやらないはずだったよね」

「さっき約束したばかりだよ」

# 指導者の不適切なコトバ（7）

## □ **見捨てる**（無視、放置、ネグレクト）

「じゃあ、もういい」

「さよなら」

「バイバイ」

**指導者は 子どもの  
「心の代弁者」になっているか**

**指導者の不適切なオコナイ**



# ネグレクトになっていないか

「主体性・自立の促しをカサに指導を放棄していないか」

# 指導者の不適切なオコナイ(1)

## □ **高圧的な指導、大声で怒鳴る**

指導者の過度な期待に、子どもを無理矢理に 応えさせようとしていないか。

成果が実現しない焦りから、高圧的に迫り、子どもが指導者の顔色ばかりをうかがって いないか。威圧によって、子どもをコントロールしようとしていないか。

# 指導者の不適切なオコナイ(2)

## □ **目を合わせない、笑いかけない**

一度も言葉を交わさずに、一日を過ごしてしまうような子どもはいないか。

指導者は、限られた時間の中で「心の安全地帯」となっているか。目を合わせ、笑いかけることで、「見ているよ」「大丈夫だよ」という安心感を子どもに与えているか。

# 指導者の不適切なオコナイ(3)

## □ **子どもを放置する(無視する)**

一生懸命、指導者にアピールしてきているのに、その子どもを無視していないか。

子どもの積極性や努力を「正しく評価されていない」という気持ちは、こころを燻らせ、指導者への不信感を募らせる。その場の流れに合わないからといって無視してはイケナイ。

# 指導者の不適切なオコナイ(4)

- **正当な理由もなく参加させない、一方的に練習から排除する**

「上手くできないなら見ていなさい」と伝えるのは「指導者としての役割の放棄」や「子どもの排除」を意味する。

苦手さを理解し、スモールステップで子どもに自信を持たせてあげることが肝心である。

# 指導者の不適切なオコナイ(5)

□ **必要な賞賛をしない、成長を価値づけけない**

「よく頑張ったね」と子どもの努力を認め、「できたね！よくやった！」と子どもを賞賛することはとても大切である。

子どもの成長に関心を抱く一方、励ましなどの適切な言葉がけを放棄してはイケナイ。

# 指導者の不適切なオコナイ(6)

## □ **必要な情報の提供や共有を怠る**

子どもについての悩みや苦勞を他者と共有しないことは「可能性の放棄」にもつながる。

「自分には自分のやり方がある」は諸刃の剣。確かに、それが功を奏することもあるが、「こどもとの関わり」は社会的な営みであり、「**独善的**」「**独裁的**」であってはならない。

# 指導者の不適切なオコナイ(7)

## □ 子どもの気持ちや心理的な危機に気づけていない

「本来怠ってはいけない危険の察知ができていない」ことも大きな問題である。

危険を放置すること、例えば、熱中症が危惧される中で水分補給を怠ったり、いじめを放置することも絶対にはならない。



**指導者は 子どもの  
「心の伴走者」になっているか**

**虐待に類似した指導は、まだ  
まだ見える化されていない**

# 子ども理解の守備範囲を広げる

- 子どものちょっとしたミスが許せない
- 対応できないことを子どものせいにする

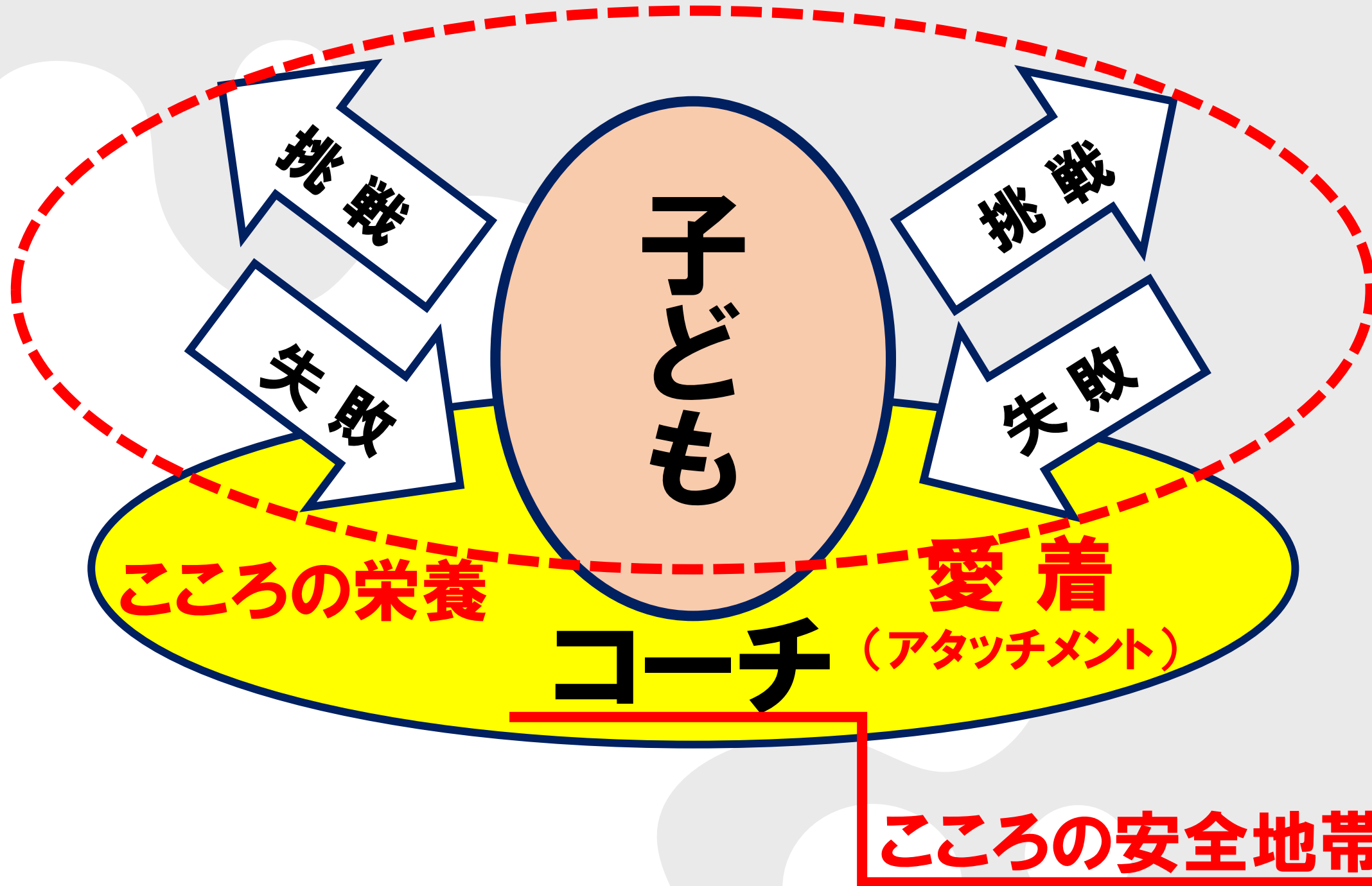


- 子どものちょっとした成長に気づこうとする
- 子どもの成長を何より嬉しく思う
- 子どもが対応できない時こそコーチの出番



# アタッチメント コーチング

主体的な探索



# アタッチメントのつくり方

- 目を合わせる
- 笑いかける
- 語りかける
- 触れ合う
- 感謝を伝える
- 努力や過程を認める



自分のことを  
気にかけてくれている



自分のことを  
分かってくれている



安心して  
挑戦することができる

子どもとの心の絆(キズナ)

# 健全な『絆』を深めていく

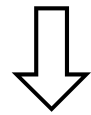
- 子どもを指導すると同時に、子供からも学ぶという姿勢を有する(相互性)
- 『やる気』を引き出す(動機づけ)
- 押付けるのではなく、子どもと一緒にあって価値観・文化を作り上げていく



**学ばざる者  
教えるべからず**

# 自己を振り返り、改善し続ける！

- 見直すべきは、自分自身だと理解する
- 頭で理解できたとしても、腑に落ちない
- 例え、腑に落ちたとしても、行動できない
- 行動できても、不器用でうまくいかない



- 常に自己反省に基づき、体質改善を目指す

注意 下記著書を引用しています。  
書店・図書等で、是非、ご参照ください。

川上康則 2022 教室マルチリートメント.  
東洋館出版社.

川上康則（編著） 2023 不適切な関わり  
を予防する教室「安全基地」化計画.  
東洋館出版社.